所沢税務署長賞

今までの義務とこれからの義務

所沢市立所沢中学校
三年　柳澤　結

中学三年生になって、もう半年が過ぎようとしている。あと半年で「義務教育」の終止符を打つことになる。私は今、高校受験に向けてたくさん迷って、たくさん相談して、昨年までとは違う夏を過ごしているところだ。

さて、中学校を卒業したら、多くの人は高等学校に進学するだろう。自分を含めて公立学校に通っていた人たちは、九年間も授業料や施設利用費などにお金をかけることなく生活を送っていただろう。しかし、高等学校に進学するとなると、場所によっては授業料や施設利用費などは支払わなければならないかもしれない。どうしてこのような費用の差があるのだろうか。その秘密は、「税金」にあった。

学校で配布された税についての資料には、私たちにとって身近な税金の使い道について書かれていた。そこには、令和元年度の公立学校の児童・生徒一人当たりの年間教育費負担額とあった。小学生は約九十二万八千円、中学生は約百九万千円という大きな費用だった。

また、新学期に配布される教科書の裏表紙には、「税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という文字が必ず書かれている。さらに、私たちが毎日使うこれらの教科書は、見やすく読み間違えないためのユニバーサルデザイン書体というものが採用されている。

毎朝学校へ登校すると、教室にはクーラーが効いていて快適に過ごすことができる。数年前に市内の小・中学校にクーラーの設備がされたが、これも税金によるものらしい。

私は、これまで長い間税金を納めていた納税者の人々のおかげで、学校生活を送ることができていると実感した。毎日使う教科書はユニバーサルデザインによって読みやすくなっている上に、税金によって無償で支給されていた。毎日過ごす学校では、環境でさえも税金によって支えられていて、過ごしやすい設備が整っていた。

周りの大人に支えられている。納税者がいるから学校へ通うことができる。私はまだ払っている税金は少ない。いずれ大人になり、今まで支えてくれた大人のような納税者となるだろう。将来の子どもや老後を迎える人のために、安定した生活、過ごしやすい環境を実現するために、納税の義務をしっかりと果たそうと思う。

そして、学校に通うことができることに感謝して、受験に挑もうと思う。感謝を残し、恩返しするために、義務教育に終止符を打とうと思う。私たち中学生が人々を支えるターンは、もうそこまで迫っている。